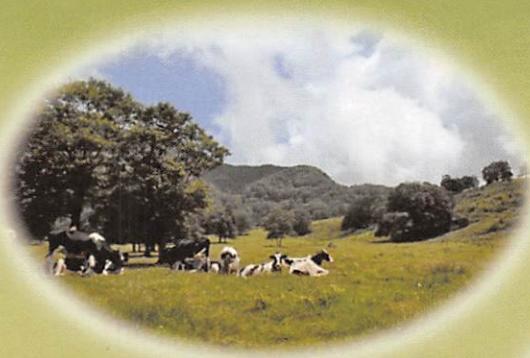


長野県農業関係試験場 要 覧

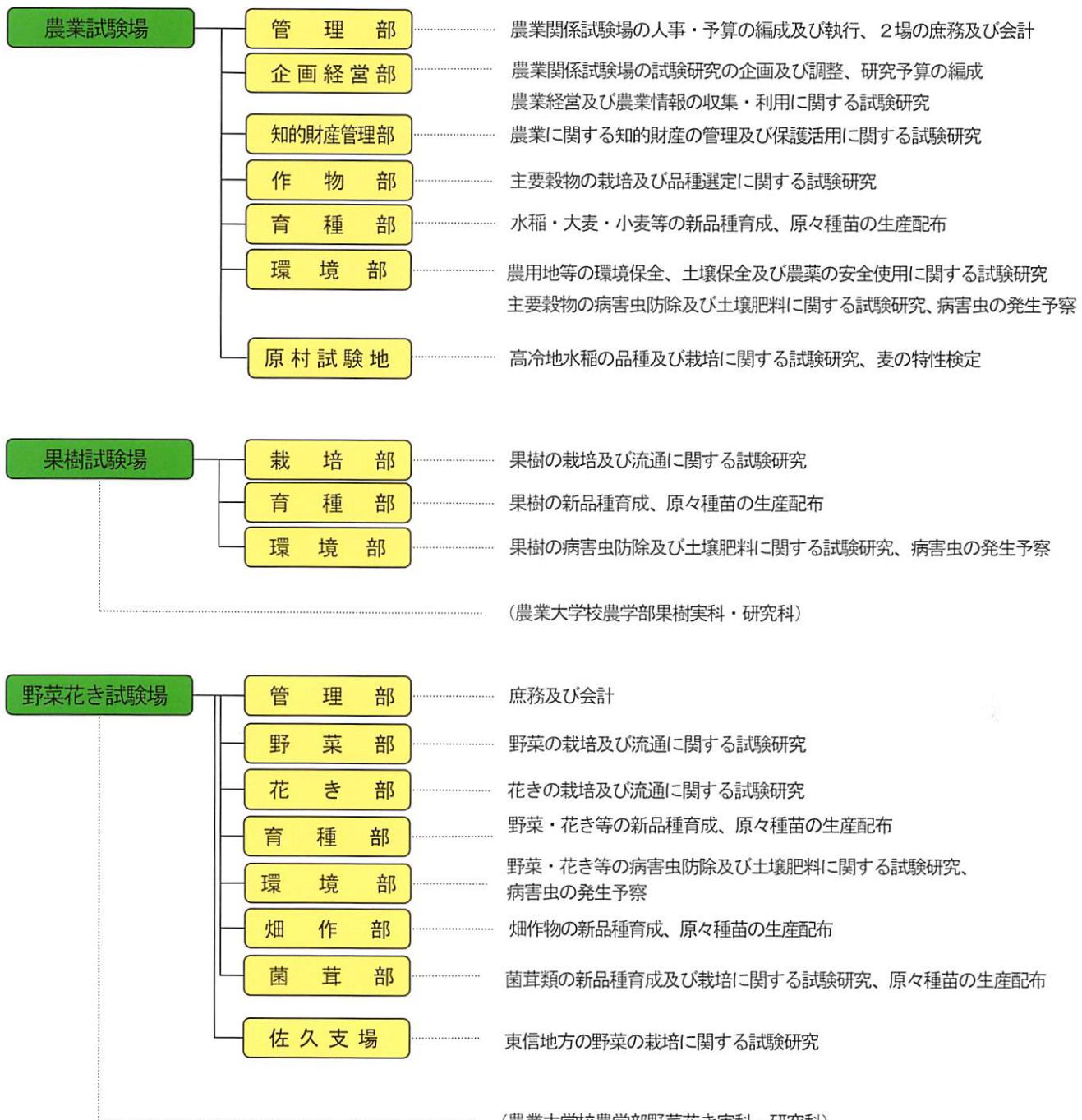


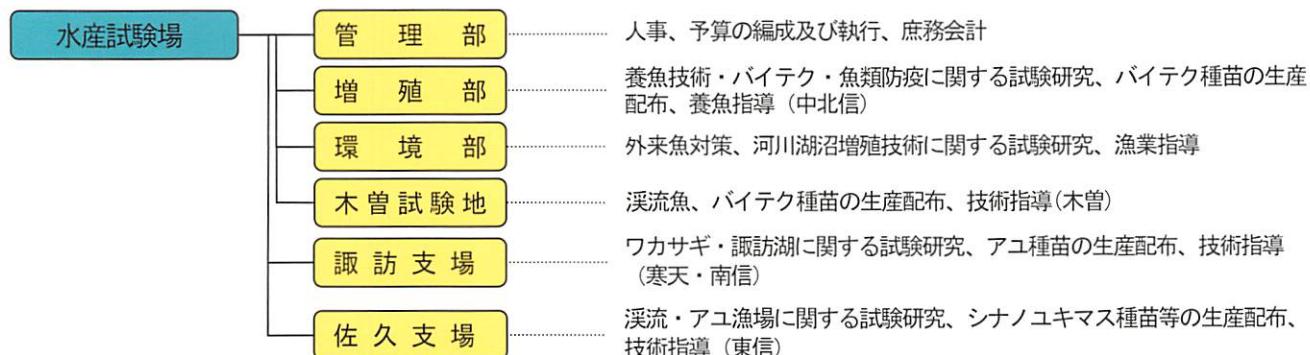
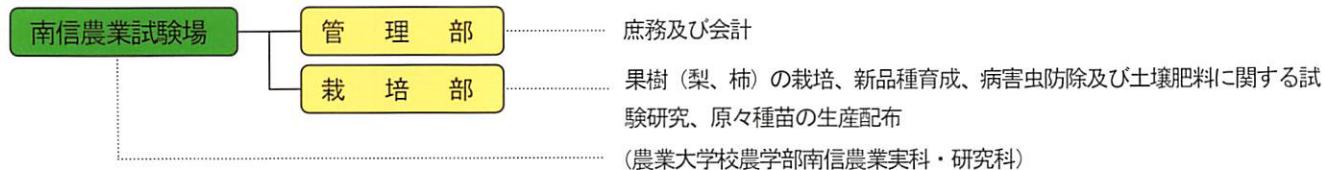
写真は「ふるさと信州風景100選」より

組織と主な業務

組織

主な業務





土 地 ・ 建 物

試験場	ほ場面積 ha	その他面積 ha	計 ha	建物面積 m ²
農業試験場				
小河原	0.6	4.0	4.6	10,198
八重森(作物部・育種部)	4.0	1.6	5.6	2,592
原村試験地	1.2	0.1	1.3	618
計	5.8	5.7	11.5	13,408
果樹試験場	9.0	0.4	9.4	(農業試と共に用)
野菜花き試験場				
塩尻	11.0	2.7	13.7	11,965
松代(菌草部)	0	0	0	566
佐久支場	3.8	4.9	8.7	1,765
計	14.8	7.6	22.4	14,207
畜産試験場	27.3	13.5	40.8	20,207
南信農業試験場	5.3	1.9	7.2	5,208
水産試験場	(池面積) 0.95	2.8	3.7	2,357
木曾試験地	0.10	0.9	1.0	559
諏訪支場	0.16	0.9	1.0	2,667
佐久支場	0.23	0.9	1.2	922
計	1.44	5.5	6.9	6,505
合計	63.64	34.6	98.2	59,535

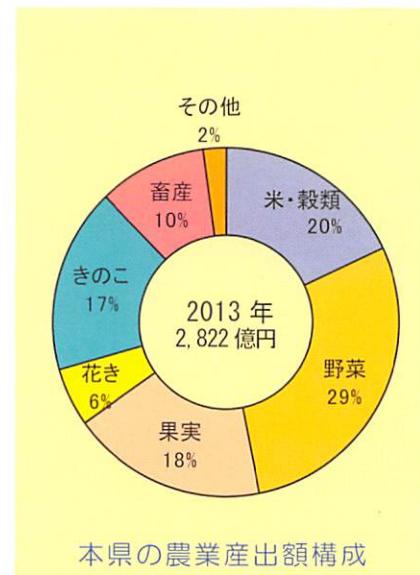
試験研究の推進方向と推進組織

1 試験研究の背景

長野県は南北に長く、平均気温や降水量、日照時間が地域により大きく異なり、変化に富んだ気象条件を有しています。

農耕地は、標高 260mから 1,500mに位置し、年較差や日較差が大きい内陸型の気候を生かして、野菜、果樹、花き、きのこ等の園芸作物を中心に様々な農畜産物が生産され、全国有数の農業県となっています。

しかし、農業者の高齢化による農業構造の変化や、農畜産物価格の低迷、農業生産資材価格の高騰、消費者の安全・安全志向の高まり、物流の変化や消費者志向の多様化など農業・農村を取り巻く情勢は大きく変化しています。このため、これらの課題に的確に対応した、新品種の育成、新技術の開発が試験研究に求められています。



2 試験研究の推進方向

農業を取り巻く情勢の変化に的確に対応し、本県の食と農業・農村の振興に向け、将来の目指すべき姿を示すとともに、それを具体的に実現するため、平成25年2月に「第2期長野県食と農業農村振興計画」が策定されました。

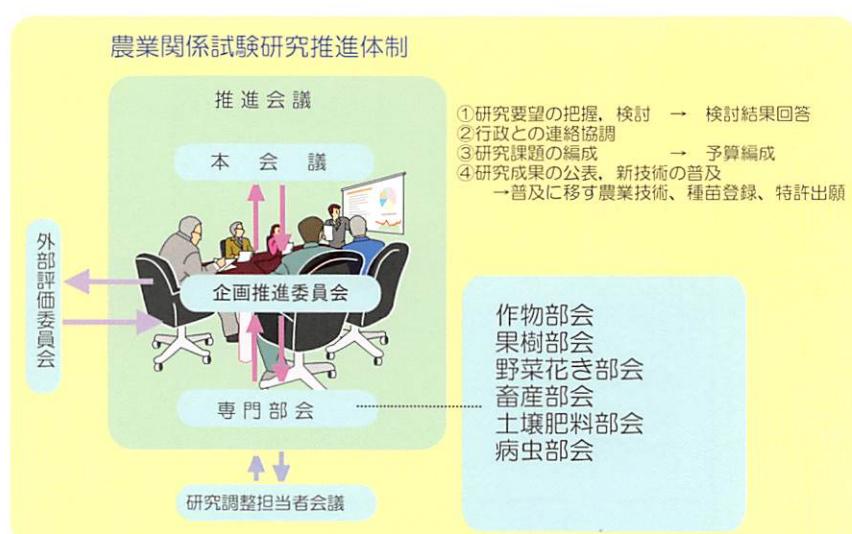
この振興計画の目標達成に向け、農業関係試験場では、「長野県農業関係試験研究推進計画」を策定し、右の4つの展開方向に沿って、試験研究を進めています。

試験研究の展開方向

- I オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用
- II 低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発
- III 環境にやさしい農業生産技術の開発
- IV 地球温暖化対策技術の開発

3 試験研究の推進体制

行政、普及、生産現場と密接に連携しながら組織的、効率的に試験研究を推進するとともに、研究成果の速やかな公表・普及を行うため、農業関係試験研究推進会議等を設置し、研究目標、試験研究課題、研究成果等について、定期的に協議を行っています。



農業試験場では、水稻、麦を対象として、品質と生産性向上をめざした新品種の育成、省力・低コストをめざした効率的な栽培技術、水田の高度利用技術、環境にやさしい栽培・病害虫防除技術、気象変動に対応した対策技術等について試験研究を行っています。また、共通基盤部門として、地域農業の活性化に関する経営的支援手法および農業情報システムの開発、知的財産の適正管理と活用手法の開発、農産物の安全性確保と環境にやさしい農業技術の開発等について研究を行っています。

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



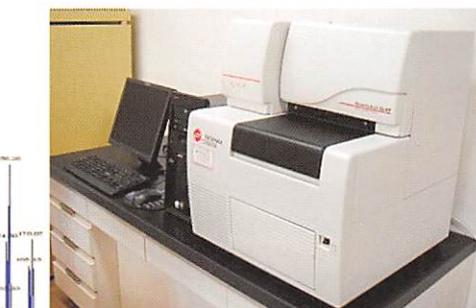
多収で高温障害が少ない水稻新品種
「風さやか」



コムギ縞萎縮病に強い良質うどん用
新品種「ゆめきらり(東山48号)」



優れた製パン性と耐病性が特徴の
パン用小麦品種「ゆめかおり」



遺伝子解析による
オリジナル品種の識別

- 作りやすい水稻多収性専用品種「ふくおこし」、酒造好適米「ひとごこち」
- 晩生で黒すじ・胴割れの発生が少ない「天竜乙女」
- 越冬性に優れた良質食用大麦品種「シュンライ」、「ファイバースノウ」
- 多様なニーズに応える良質な小麦品種「ユメセイキ」、「ハナマンテン」

低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発



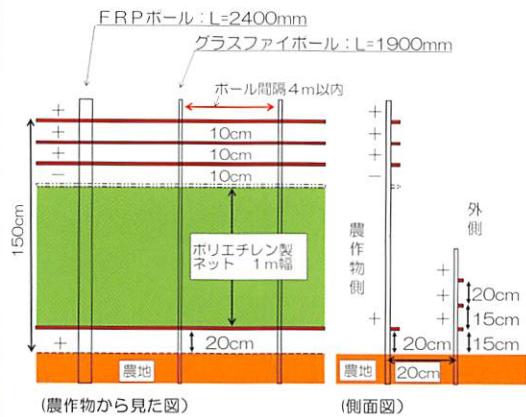
斑点米を軽減するための
アカヒゲホソミドリカスミカメ発生予察試験



ヤグルマギク(麦畑)
大豆・麦畑における難防除帰化雑草対策試験



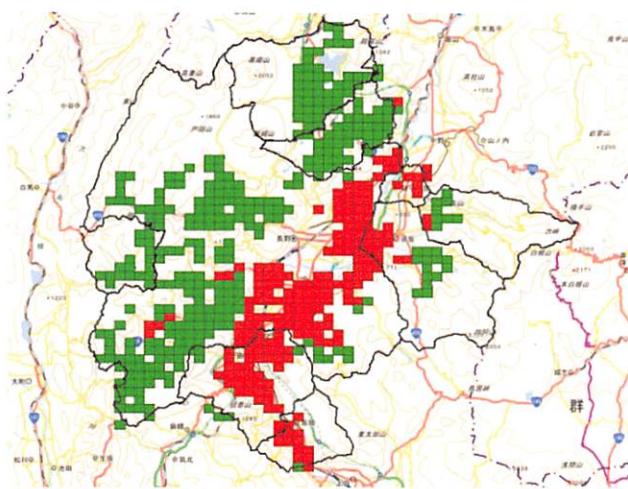
稲の生育、いもち病の発生を予測する栽培支援装置「クロッパナビ」



多獣種の侵入を防ぐ長野式電気柵



耕うん同時畝立て播種機を用いた麦および大豆の省力栽培技術



「農業情報メッシュデータ」による気象条件に起因する事象の地図化
(水稻出穗後 20 日間の平均気温による作図例)

環境にやさしい農業生産技術の開発



無処理 既存化学農薬 エコホープ DJ

もみ枯細菌病に有効な種子消毒剤「エコホープDJ」
(微生物と重曹の混合薬剤)

- きのこ廃培地堆肥を用いたリン酸肥料代替技術
- 各種有機物を用いた米の品質向上施肥技術
- 家畜ふん堆肥の塩酸抽出による簡易成分分析法

- 玄米中カドミウムの吸収を抑制する田面水足跡深利用技術
- ブームスプレーヤ用ドリフト低減ノズルの実証
- マイナー作物の安定生産に必要な農薬登録拡大
- 施肥診断支援システム
「Dr.大地」の開発
- 収量を維持し、省力化が可能な水稻の直播栽培法
- 簡易水槽(プール)を用いた水稻の省力育苗法の開発
- 麦の省力施肥技術の確立（全量基肥）

地球温暖化対策技術の開発



正常粒 白未熟粒

- 水稻の白未熟粒発生軽減技術のための耐暑性検定
- 高温登熟性に優れる水稻品種育成

果樹試験場

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kajushiken/>

本県は恵まれた気象条件、立地条件を活かした全国屈指のくだもの生産地です。

果樹試験場では主要品目のりんご、ぶどう、ももをはじめ、あんず、ブルーン等の特産果樹について、新品種の育成、低コスト・省力化・高位安定生産技術、環境にやさしい農業生産技術及び地球温暖化対策技術等の試験研究に取り組んでいます。

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



早生で着色が優れる「リンゴ長果25」



大玉で食味の良い「オータムキュート」



着色が優れみつ入りの良い「シナノホッペ」

○りんご早生種「リンゴ長果25」、中生種「シナノスイート」、良食味で黄色の「シナノゴールド」、丸かじりりんご「シナノピッコロ」、「シナノプッチ」

○皮ごと食べられるぶどう「ナガノパープル」、良食味のもも「なつっこ」、スイートネクタリン「スマーフクリスタル」

○ブルーン「サマーキュート」(8月下旬成熟)、「オータムキュート」(9月下旬成熟)、大玉のすもも「スマモ長果1」(9月下旬成熟)

低成本・省力化・高位安定生産技術の開発



作業労力を軽減するりんご新わい化栽培技術

○省力、安定生産を可能にするりんご新わい化栽培、

ぶどう（無核栽培）の短梢平行整枝法等の栽培技術

○りんご、ぶどう、核果類の高品質安定生産技術と適期収穫技術

○着果管理、新梢管理等の省力化のための植物成長調整剤の利用技術

○高品質果実の長期供給のための鮮度保持技術

○細菌性病害やハダニなど主要病害虫の防除技術

○マイナー果樹類の防除技術



天敵を利用したりんごのハダニ類防除試験

○温水を利用した白紋羽病防除技術

○土着天敵を活用したりんご等の減農薬防除技術



葉柄汁液中の硝酸イオン測定による
「ナガノパープル」の簡易栄養診断

○栄養診断を活用した適正施肥技術

○土壤中の養分量を考慮した施肥管理技術

地球温暖化対策技術の開発

- 果樹生産に及ぼす地球温暖化の影響評価
- りんごの果実日焼け軽減技術
- りんご、ももの樹体凍害軽減技術
- 地球温暖化に対応した品種育成
- 地球温暖化に対応した病害虫防除技術及び施肥技術



温暖化再現施設を利用した温暖化影響評価試験

南信農業試験場

<http://www.pref.nagano.lg.jp/nannoshiken/>

南信地域は、気象や地形の変化に富み多くの種類の作物が栽培されています。こうした地域特性を活かし、果樹を中心に ①ブランドづくり ②人や環境にやさしく ③生産の安定化を試験研究の視点に、関係機関・団体、生産現場と連携して新たな「品種や技術」の開発に取り組んでいます。

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



黒星病に強い早生の甘い
日本なし「サンサンスイート」

環境にやさしい農業生産技術の開発



温水点滴処理による
ナシ白紋羽病の防除技術



果樹園における土壌物理性の改善試験

- ナシマダラメイガ、ナシヒメシンクイの効率的防除技術
- カキ円星落葉病の効率的防除技術
- 局所施肥によるなし園・かき園の効率的施肥技術

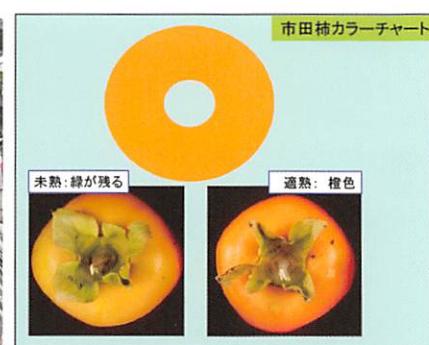
低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発



省力化できる日本なし「南水」の
樹体ジョイント仕立て



樹体ジョイント仕立てに適する
苗木の早期育成法試験



地球温暖化対策技術の開発

- 地球温暖化が日本なしおよび市田柿栽培に及ぼす影響評価と対策技術
- 日本なし障害果実の発生原因の究明
- 甘かき品種適応性検定試験

野菜花き試験場 佐久支場

<http://www.pref.nagano.lg.jp/yasaikaki/>

<http://www.pref.nagano.lg.jp/yasaikaki-saku/>

本県の野菜・花き・きのこは、恵まれた気象条件と立地条件を活かした全国有数の産地として発展してきました。野菜花き試験場では、安定生産と競争力の強化に即応できる、本県オリジナルの病気に強く、高品質な新品種の育成と新品目の開発や、低成本・省力・軽作業生産技術、高品質・安定生産技術、環境にやさしい栽培技術の研究・開発を行っています。

また、大豆、そばの高品質安定生産を目指した新品種の育成に取り組んでいます。

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



レタス根腐病耐病性品種
「シナノパワー」



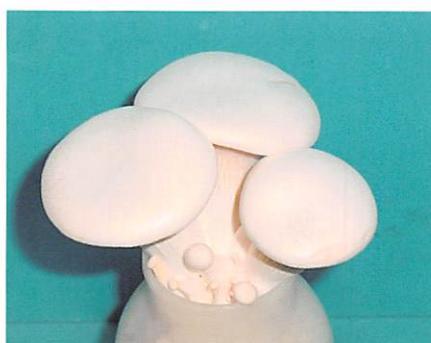
晚抽性で盛夏どりに適したレタス
「サマーエース」



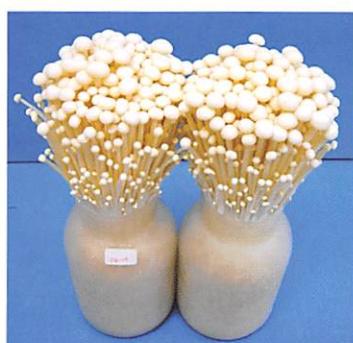
白花リンドウ
「長花交 33 号」



トルコギキョウ
「長花交 35 号」



形状に優れるバイリング「シナノ淡雪」



高温培養適性に優れる
エノキタケ「シナノアーリー」



四季成り性いちご「サマープリンセス」



特色ある大豆品種

- 左上：高蛋白質大豆「すずほまれ」
- 右上：納豆用大豆「すずろまん」
- 左下：青大豆「あやみどり」
- 右下：黒大豆「華大黒」



丸抜き（左）とそば切り（右）の緑色が濃い
「長野 S8 号（信州ひすいそば）」



長期どりアスパラガス
「ずっとデルチェ」

その他の主な育成品種

- 根腐病に対して耐病性を有するレタス「シナノホープ」、「シナノオータム」、「シナノスター」
- 食味の良い夏秋どりキャベツ「SE」、「YRSE」
- 根こぶ病抵抗性でアントシアニンが少なく色の良いつけ菜「ニューシナノ」
- 収量性の高いジュース用トマト「らくゆたか」、「なつのしゅん」
- 機能性成分を多く含むケール「ハイパール」
- 辛味がひきたつ、おろし用ダイコン「戸隠おろし」、「からねずみ」
- 抑制栽培向けトルコギキョウ「長花交34号」、「長花交36号」、「長花交37号」
- 茎が太く、形状の優れるエリンギ「しなの麗人」
- 倒伏しにくく、栽培適性に優れるそば「タチアカネ」
- 倒伏しにくく、収量性が高いあわ「しなのつぶ姫」



アスパラガスの簡易雨よけ栽培

低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発

- アスパラガスの減収要因解明とその対策技術
- 不織布製鉢を利用した夏秋どりトマト養液栽培技術
- 低コスト高設栽培システム「上部給水吸い戻し方式」によるイチゴ栽培技術
- 量販需要に向けたキクの密植栽培技術
- 切り花の品質保持技術
- エノキタケ、ブナシメジの低成本・高生産性培地
- 越冬ライムギのすき込みによるレタスの減肥栽培
- アブラナ科野菜黒斑細菌病の簡易迅速診断技術
- 変温管理による施設花き栽培の暖房用燃料費削減技術



不織布製鉢を利用したトマトの養液栽培

環境にやさしい農業生産技術の開発

- 全面マルチ用うね内部分施肥による葉菜類の減肥技術
- OLED防蛾器を用いた花き類の総合的害虫防除技術
- 温湯種子消毒によるセルリーの種子伝染性病害防除技術
- レタス、はくさいへのヒシ堆肥利用法
- 全面マルチほ場での植生帯設置による土壌流出防止技術



黒斑細菌病の防除試験



LED防蛾器レビガード



キクの密植栽培

地球温暖化対策技術の開発

- 晩抽性レタスの育成と盛夏期の高温対策、温暖化に伴う異常気象対策試験
- 遮光資材等を活用したセルリーの安定生産技術
- 盛夏期のトマト施設栽培における高温対策用被覆資材の利用技術



カーネーションの品質保持剤処理技術

畜産試験場

<http://www.pref.nagano.lg.jp/chikusanshiken/>

畜産試験場では、畜産経営の健全な発展と、安心・安全な付加価値の高い畜産物の生産のため、高品質畜産物生産技術や低コスト生産技術の開発、家畜・飼料作物の育種改良と増殖、さらには温暖化に対応した飼養管理技術の開発に取り組んでいます

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



県内の肉用牛子牛生産に活躍している
黒毛和種基幹種雄牛「栄寿」号



歯ごたえ・美味しさ・風味の3拍子が揃ったおいしい「信州黄金シャモ」



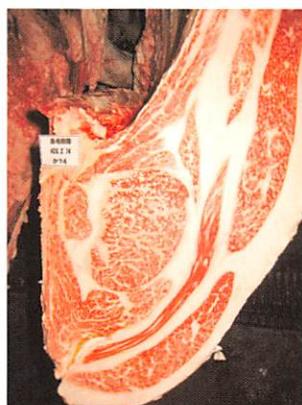
超多収スーダン型ソルガム「峰風」
(左が「峰風」、右は標準品種)

○遺伝的産肉能力に優れた黒毛和種種雄牛「栄寿」「悟空286」「穂里福」「丸山福」

○高消化性ソルガム「涼風」「華青葉」「峰風」

○耐倒伏性が高い飼料用とうもろこし中生品種「タカネフドウ」

低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発



子牛育成マニュアルで
育成した黒毛和種肥育
牛の枝肉（格付け A5）



豚精液の採精と高分子ゲル
を利用した精液輸送技術

○高泌乳・疾病低減のための泌乳曲線平準化飼養管理試験

○黒毛和種の高増体育成とオレイン酸向上のための飼養試験

○高能力種豚精液活用による繁殖能力と肉質の改善

○信州黄金シャモの呈味・機能性成分強化試験

○自給飼料多給による高泌乳牛飼養管理試験

○エコフィードを用いた発酵 TMR による肉用牛肥育試験

○豚の一斉種付けを可能にする発情誘起試験

○鶏の雌雄別飼いによる発育向上試験

環境にやさしい農業生産技術の開発

○持続的資源循環のための
土壤養分の補正技術

○除草剤や化石エネルギー
の消費を低減する牧草・
飼料作物栽培技術



モアコンディショナを活用した
省力的な収穫調製技術



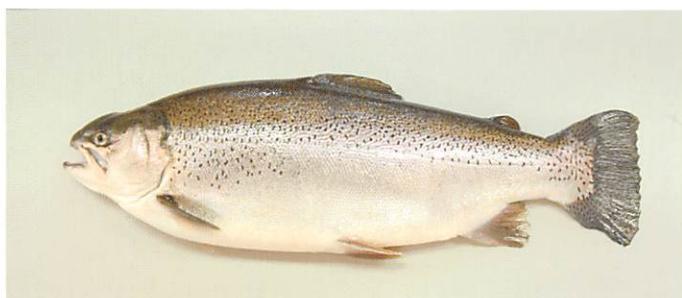
自給飼料を積極的に利用する
乳牛・肉用牛の飼養技術

地球温暖化対策技術の開発

○地球温暖化に対応した家畜の暑熱対策試験

○気候変動に対応した飼料作物の作付体系と病害対策試験

河川湖沼漁業、養殖業、そして寒天製造業で構成される本県の水産業は、豊かな水資源と恵まれた自然環境を背景に発展してきました。水辺環境に対する県民意識の高揚や価値観の多様化等により、遊漁を含む河川湖沼の利用が増加する中で、ブラックバス等の分布拡大や冷水病によるアユ不漁など漁場環境は大きく変化しています。養殖業では輸入水産物の増加や消費の低迷等の構造変化に対応した技術開発が求められています。このような状況から、資源管理技術や漁場環境保全技術の開発、バイオテク技術を用いた新品種の作出、魚類防疫対策等の試験研究に加え、技術指導や優良種苗の供給により安全・安心な水産物の生産を推進しています。



信州サーモン（ニジマス4倍体♀×ブラウントラウト♂）



全雌イワナ三倍体（仮称：信州大（おお）イワナ）



ワカサギの耳石日周輪



小型電気ショッカーによる
魚類の生息状況調査

◎ 最近の主な研究成果

- 1 信州サーモン（全雌異質三倍体）の開発
- 2 信州サーモンの品種判別技術の開発
- 3 全雌イワナ三倍体の開発
- 4 諏訪湖におけるワカサギの資源管理技術の開発
- 5 ブラックバス、ブルーギルの駆除技術の開発
- 6 冷水病対策等、河川のアユ資源の管理技術の開発
- 7 溪流魚の増殖技術の開発
- 8 大型魚の放流による冬季ニジマス釣り場の創出
- 9 水田を利用した在来魚の増殖技術の開発
- 10 マス類、コイ等の魚病対策及び防疫技術の開発

現在取り組んでいる主な課題

農業試験場

- 水稻・麦・大豆部門
 - 1 長野県に発生した雑草イネの総合防除対策
 - 2 コシヒカリの白未熟粒発生軽減技術の確立
 - 3 水稻の良食味品種、酒造好適米品種、麦類品種の育成
 - 4 気象変動が水稻に及ぼす影響評価と対応技術の開発
 - 5 低コスト水田営農体系技術の確立
 - 6 イネいもち病、もみ枯細菌病等の主要病害の効率的な防除技術の開発
 - 7 斑点米カメムシ等の主要害虫の効率的な防除技術の開発
 - 8 普通作物の施肥技術改善
- 共通基盤部門
 - 1 企業的農業経営と地域農業の活性化および農業情報システムの開発
 - 2 (野生鳥獣被害対策)
 - 3 土壤由来温室効果ガス・土壤炭素調査事業
 - 4 カドミウム汚染転換畑土壤の土壤洗浄による修復技術の開発
 - 5 マイナー作物等農作物の農薬安全使用技術の確立
 - 6 農薬の環境動態に関する調査

野菜花き試験場

- 1 レタス・トマト・セルリー等の耐病性等新品種育成
- 2 エノキタケ・ブナシメジ等の低成本等新品種育成
- 3 湿害や病害に強い大豆、耐倒伏性で高品質のそば新品種育成
- 4 アスピラガス伏せ込み栽培における多収技術の検討
- 5 レタスのチップバーン抑制技術の開発
- 6 トルコギキョウ抑制制作型の栽培技術確立
- 7 花きの鮮度保持技術による品質管理技術の開発
- 8 キノコバエの発生予察技術の開発
- 9 中間夏型そば品種の育成と二期作多収栽培技術の開発
- 10 アブラナ科野菜の黒斑細菌病に対する総合対策技術の開発
- 11 ピーマン等施設野菜害虫に対する天敵利用防除体系の開発
- 12 土壌蓄積養分の利用及び肥料の特性に基づく効率的施肥技術の開発
- 13 レタスの抽だい回避作付け予測モデルによる適地・適作型の予測

畜産試験場

- 1 飼料用米等自給飼料多給による高泌乳牛飼養管理技術の確立
- 2 エコフィードを活用した肉用牛肥育システムの開発
- 3 冷水を用いたタイストール乳牛舎の暑熱対策技術の確立
- 4 アントシアニン高含有トウモロコシの開発とその給与による家畜の抗酸化力向上・生産性向上技術の開発
- 5 自給飼料多給および品種交雑利用による高品質豚肉生産技術の確立
- 6 「信州黄金シャモ」等地鶏の生産性向上技術の確立
- 7 紫斑点病抵抗性を持つ高消化性ソルゴー型及びスー丹型ソルガム新品種の開発
- 8 年3回刈り体系による高品質粗飼料増産技術の開発

南信農業試験場

- 1 日本なしの新品種育成及び新品種の栽培技術確立
- 2 地域特産果樹「市田柿」の生産安定技術の確立
- 3 日本なしの樹体ジョイント仕立てによる果樹の省力、低成本栽培システムの開発
- 4 果樹病害虫の発生生態の解明と効率的防除技術の開発
- 5 なし、かき病害虫の環境にやさしい防除技術の開発
- 6 なし樹園地の環境保全型土壤および施肥管理技術の開発
- 7 「市田柿」原料かきを主体としたかき園に対する効率的施肥法の確立

水産試験場

- 1 ブラックバス、ブルーギル等の駆除技術の高度化
- 2 イワナ資源の自然繁殖のモデル化
- 3 溪流資源の管理方法の検討
- 4 地球温暖化がワカサギの資源変動に及ぼす影響評価と適応技術の開発
- 5 河川におけるアユ疾病防除技術の開発
- 6 信州サーモンの品質管理技術の開発
- 7 バイテク技術を活用した新たな養殖用品種の開発
- 8 ワカサギ等の資源管理技術の確立
- 9 魚病対策技術開発及び防疫技術の開発
- 10 漁協、養殖業者、寒天製造業者への技術指導
- 11 バイテク魚、放流アユ等の種苗供給

沿革

農業試験場

明治 30 年	長野県立農事試験場を上水内郡芹田村字若里に設置
大正 10 年	長野市中御所に移転、果樹試験地を長野市箱清水に設置
大正 15 年	下伊那分場を下伊那郡市田村に設置
昭和元年	稻穀(モチ)病試験地を南安曇郡豊科町に設置(昭和 41 年廃止)
昭和 10 年	冷害試験地を諏訪郡原村(現、原村試験地)に設置
昭和 12 年	桔梗ヶ原試験地を東筑摩郡広丘村に設置
昭和 16 年	飯山雪害試験地(昭和 46 年飯山積雪試験地と改称、平成 4 年廃止)を下水内郡飯山町の蚕業試験場飯山雪害試験地に併設
昭和 22 年	園芸分場を上高井郡須坂町に設置
昭和 25 年	園芸分場の設置に伴い、長野市箱清水の蔬菜試験地を廃止、果樹試験地を果樹母樹園に改称
昭和 26 年	農事試験場を農業試験場と改称、農林省長野農事改良実験所及び北御牧用人參試験地が県に移管
昭和 36 年	東部畑作試験地を設置(昭和 51 年に果樹試へ移管)
昭和 38 年	北御牧用人參試験地を北御牧特用作物試験地と改称
昭和 51 年	農業総合試験場農事試験場と改称し須坂市へ移転
昭和 55 年	農事試験場と改称
平成元年	育種部を設置
平成 14 年	病害虫部と土壤肥料部を病害虫土壤肥料部に統合
平成 21 年	農業総合試験場と統合し農業試験場と改称 病害虫土壤肥料部と農業総合試験場環境保全部を統合し環境部と改称、知的財産管理部を設置

野菜花き試験場

昭和 51 年	園芸試験場の野菜花き、特用作物及び菌草部門を組織替えし、農業総合試験場野菜花き試験場として長野市松代町大室に設置
昭和 55 年	野菜花き試験場と改称
平成元年	育種部を設置
平成 9 年	環境部を改組し病害虫部、土壤肥料部を設置
平成 14 年	病害虫部と土壤肥料部を病害虫土壤肥料部に統合、営農技術センター研究部を移管し佐久支場を設置
平成 21 年	中信農業試験場と統合し塩尻市宗賀へ移転 長野市松代町大室に野菜花き試験場北信支場を設置し育種部、花き部、菌草部を存置
平成 22 年	病害虫土壤肥料部を環境部と改称
平成 23 年	花き部を塩尻市宗賀へ移転 育種部を塩尻市宗賀へ移転 畑作育種部を畑作部と改称 北信支場を廃止

畜産試験場

昭和 39 年	塩尻市片丘に畜産試験場として設置、種羊場(昭和 26 年小海町に設置)を統合
昭和 41 年	種畜場(昭和 19 年茅野市に設置)を統合
昭和 42 年	中央家畜人工授精所(昭和 11 年松本市に種畜場松本分場として設置、昭和 31 年改称)を統合
昭和 43 年	種鷄場(昭和 3 年長野市に設置)を統合
昭和 51 年	農業総合試験場畜産試験場と改称
昭和 55 年	畜産試験場と改称
平成 14 年	養豚部と養鷄部を統合し養豚養鷄部と改称
平成 21 年	草地飼料部を飼料環境部に改称 酪農部と肉用牛部を統合し酪農肉用牛部に改称

果樹試験場

明治 43 年	農事試験場に果樹部を設置(明治 44 年果樹蔬菜部と改称)
昭和 22 年	農事試験場園芸分場として上高井郡須坂町に設置
昭和 32 年	長野市箱清水の果樹母樹園廃止
昭和 34 年	園芸試験場に組織替え
昭和 39 年	北御牧特用作物試験地を農業試験場から移管
昭和 51 年	農業総合試験場果樹試験場と改称、東部畑作試験地を農事試験場から移管し東部試験地と改称(平成 4 年廃止)
昭和 55 年	果樹試験場と改称
平成元年	育種部を設置
平成 9 年	土壤肥料部を設置
平成 14 年	病害虫部と土壤肥料部を病害虫土壤肥料部に統合
平成 21 年	病害虫土壤肥料部を環境部と改称

南信農業試験場

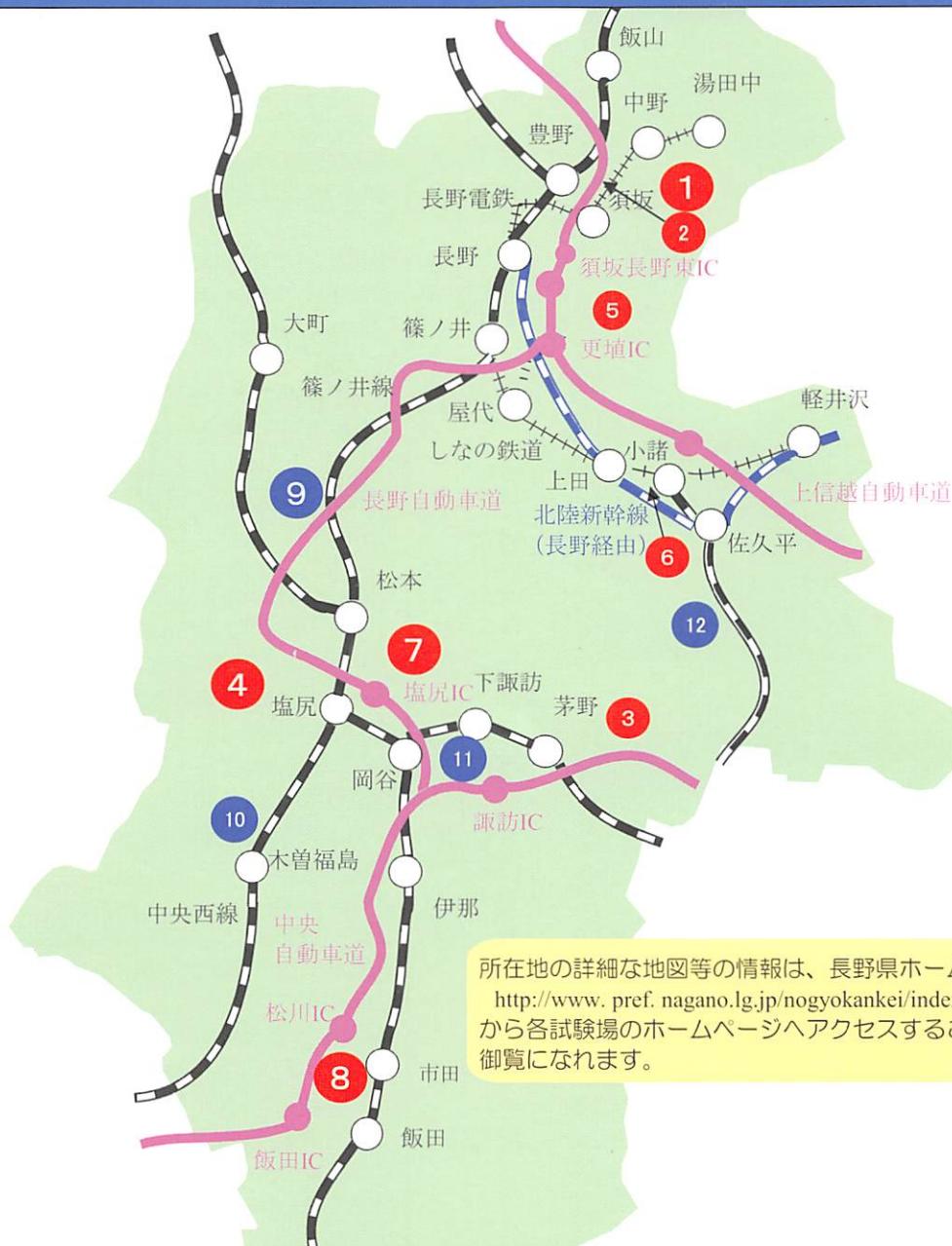
大正 15 年	農事試験場下伊那分場として下伊那郡市田村に設置
昭和 6 年	陸稲試験地(清東)を設置
昭和 10 年	園芸部門を拡充
昭和 25 年	畜産部門を拡充(昭和 39 年に畜試に統合)
昭和 50 年	本館、付属棟を下伊那郡高森町下市田(角田原)に移転設置
昭和 51 年	農業総合試験場南信地方試験場と改称
昭和 55 年	南信農業試験場と改称
平成 9 年	蚕業センターの廃止に伴い養蚕部、繭糸検定部を設置
平成 10 年	繭糸検定部を廃止
平成 14 年	養蚕部と環境部を統合し病害虫土壤肥料部と改称
平成 21 年	栽培部へ病害虫土壤肥料部を統合

水産試験場		営農技術センター
大正 15 年	犀川ふ化場として東筑摩郡中川手村に設置	農事試験場薬用人参試験地を北御牧郡横鳥村に設置
昭和 3 年	明科魚類増殖場と改称	農林省長野農事改良実験所北御牧薬用人参試験地として発足
昭和 11 年	養魚池及び庁舎・付属建物を現在地に設置	県に移管され、農業試験場北御牧薬用人参試験地となる
昭和 12 年	木曾川ふ化場を木曾福島町川上に設置	園芸試験場北御牧特用作物試験地と改称
昭和 13 年	明科魚類増殖場を長野県水産指導所と改称	農業総合試験場野菜花き試験場北御牧試験地と改称
昭和 15 年	水産試験場を下諏訪町下の原に設置	野菜花き試験場北御牧試験地と改称
昭和 19 年	水産試験場南佐久採苗場を南佐久郡野沢町跡部に設置	野菜花き試験場北御牧試験地と農業研修センター(研修部)を統合し、営農技術センターを小諸市山浦に設置
昭和 20 年	水産指導所を明科水産指導所、水産試験場を諏訪水産指導所、水産試験場南佐久採苗場を諏訪水産指導所佐久ふ化場と改称	営農技術センターを廃止し、研究部門を野菜花き試験場佐久支場として移管設置
昭和 22 年	水産指導所、同諏訪支所、同佐久支所、同木曾川ふ化場と改称	
昭和 36 年	寒天検査研究所を茅野市宮川に設置（平成 4 年に諏訪支場に統合）	
昭和 45 年	水産指導所佐久支所を佐久市高柳に移転	
昭和 56 年	水産試験場、同諏訪支場、同佐久支場、同木曾川ふ化場と改称。本場に魚病指導総合センターを位置	
昭和 60 年	木曾川ふ化場を木曾試験地と改称	
昭和 63 年	木曾試験地を木曾福島町新開に移転	

農業総合試験場		蚕業センター
昭和 51 年	機構改革により須坂市に設置(昭和 51~54 年度の間は全ての試験場名の上に農業総合試験場を付して呼称)	上田、松本に原蚕種製造所を設置
昭和 59 年	研究部にバイオテクノロジー研究室を設置	飯田に原蚕種製造所を設置
平成元年	室制を廃止し部制に移行、農業経営室と機械施設室を統合し経営機械部と改称	蚕業試験場を長野市岡田に設置
平成 9 年	経営機械部、情報普及部を改組し、農業機械部、経営情報部を設置	各原蚕種製造所を蚕業試験場上田、松本、飯田支場として組織替え
平成 14 年	保鮮流通部の業務を果樹試と野菜花き試に移管し廃止、農業機械部を機械施設部に改称	桑樹雪害試験地を下水内郡飯山町に設置(昭和 16 年農事試験地を併設)
平成 21 年	農事試験場と統合、これにあわせ機械施設部及びバイオテクノロジー部の業務を各試験場に移管し廃止、企画調整部と経営情報部を統合し企画経営部と改称、環境保全部と農事試験場病害虫土壤肥料部を統合し環境部と改称、知的財産管理部を設置	戸倉、池田支場を設置

中信農業試験場		
昭和 12 年	農事試験場桔梗ヶ原試験地として東筑摩郡広丘村に設置	蚕業試験場・繭検定所及び蚕業技術指導所を統合し、蚕業センターを設置
昭和 22 年	農林省長野農事改良実験所桔梗ヶ原試験地として国へ移管	蚕業技術指導所を農業改良普及センターに統合
昭和 26 年	再び県の所管となり農業試験場に所属替え	蚕業センターを廃止
昭和 28 年	農業試験場桔梗ヶ原分場と改称	南信農業試験場に養蚕部、繭糸検定部を設置
昭和 51 年	農業総合試験場中信地方試験場と改称	繭糸検定部は平成 10 年廃止、養蚕部は平成 14 年に病害虫土壤肥料部に統合
昭和 55 年	中信農業試験場と改称	
昭和 59 年	塩尻市宗賀床尾に移転設置	
平成 21 年	野菜花き試験場と統合	

農業関係試験場の所在地



① 農業試験場	〒382-0072	須坂市小河原492	026-246-2411
② 作物部・育種部	〒382-0051	須坂市八重森下沖610	026-246-9783
③ 原村試験地	〒391-0100	諏訪郡原村向坂上3853-3	0266-79-2713
④ 果樹試験場	〒382-0072	須坂市小河原492	026-246-2415
⑤ 野菜花き試験場	〒399-6461	塩尻市宗賀床尾1066-1	0263-52-1148
⑥ 菌草部	〒381-1211	長野市松代町大室2206	026-278-6848
⑦ 佐久支場	〒384-0807	小諸市山浦4857-1	0267-25-3080
⑧ 畜産試験場	〒399-0711	塩尻市片丘10931-1	0263-52-1188
⑨ 南信農業試験場	〒399-3103	下伊那郡高森町下市田2476	0265-35-2240
⑩ 水産試験場	〒399-7102	安曇野市明科町中川手2871	0263-62-2281
⑪ 木曽試験地	〒397-0002	木曽郡木曽町新開正ノ平127-238	0264-23-8571
⑫ 諏訪支場	〒393-0034	諏訪郡下諏訪町6188-10	0266-27-8755
⑬ 佐久支場	〒385-0042	佐久市高柳282	0267-62-0162

